



市政同志会 江端 一高 議員

豚コレラ対策を実施すべき

問 豚コレラ感染の現状と市の方針は。

答 県内でも養豚農家の防疫対策の強化と野生イノシシのモニタリング調査が行われている。市内の野生イノシシにも感染している可能性があるため、有害捕獲におけるモニタリング調査への協力、森林内や道路上での死亡個体の通報体制の整備、消毒の徹底について確認をしている。市としても感染拡大の防止を最優先に考え、衰弱イノシシの目撃情報が速やかに市に入るようご協力をお願いしている。モニタリング調査の継続と適切な有害捕獲にこれからも取り組んでいく。国や県から要請があれば、今後の対策も一緒に協力していきたい。

eスポーツの理解が必要

問 eスポーツをどのように考えているのか。

答 eスポーツの内容等については理解を進めていかなければならない。ただ、学校教育の一環としてふさわしいかどうか、生徒自身がみずから学び考える行動力を育み、夢や希望を実現する突破力を身につけることができるという部活動の意に適しているかどうか、考慮に入れる必要がある。現時点では小中学校の部活動としてはなじまないと考えている。

輝き魅力ある安全安心な元気なまちづくりについて

問 輝く女性の活躍推進を、めがねのまち鯖江から世界のめがねの聖地確立にどう結びつけていくのか。

答 市長 女性活躍推進は、SDGs実施計画の経済成長と国土強靱化、そして女性活躍の三つを柱として、これからの自治体の取組に、国や経済界が一体となって施策展開を図るべきと提言され、国の取組から市の取組ということになった。国に提案した、これまでの本市の女性活躍推進の取組が選定されたので、鯖江の女性が生き生きと活躍できる土壌の中での鯖江発女性活躍ロールモデル、鯖江の土壌を活かした女性活躍社会、女性のエンパワーメントが地域を変えるを、国連の場で発信し、鯖江を「世界のめがねの聖地」と認知されるよう取り組んでいく。

問 北陸新幹線敦賀開業と冠山峠道路開通に対する鯖江市の認知度アップへの取組は。

答 来年開催される東京オリンピック・パラリンピックでは連携協定を締結している大学と連携し、めがねのまち鯖江をPRする絶好の機会と考えている。

小学校の英語にALT増員が必要

問 ALTの現状と外国語専門の教科担当教諭の配置は十分か。

答 ALTは昨年度より派遣回数を増やしALTと担任による二人体制チームティーチングを組んで授業を実施している。ALTの授業を心待ちにしている児童は非常に多い。現段階では小学校の担任が英語授業を担当することになっており、英語免許を持つ教諭による指導が行われているわけではない。教員の指導力向上、教科化にむけての様々な取組を進めている。

そのほかの質問

- 市民プールの再整備
- 教職員の働き方改革
- 部活動のあり方

また、北陸新幹線敦賀開業と同時期開通予定の冠山峠道路については、中京圏へのプロモーション活動に力を入れ、観光ルートの確立と認知度を高めるため親しみやすくテーマ性のある愛称を検討し、観光客の誘致に積極的に取り組んでいきたい。

さらに、2025年開催の大阪・関西万博では、SDGsが大きなテーマとされており、世界に発信できる大きなチャンスと捉え、国連団体との連携の中で、世界のめがねの聖地SABAEの確立に繋がるようなプロモーション活動に取り組んでいく。

そのほかの質問

- 「いちほまれ」「さばえ菜花米」「スマート農業」などの農業振興について
- 減災事業の「田んぼダム」の整備について



市政同志会 佐々木 一弥 議員